

平成 23 年 3 月 21 日

(午後 1 時 05 分)

篠 原 文 陽 児

### 平成 22 年度後期「教職入門の記録」への講評概要

皆さんがご提出された「教職入門の記録」(以下「記録」と略すことがあります)を読ませていただきました。

「記録」では、皆さんが記述した内容について、当該箇所に、必要に応じ、私のコメントを簡単に記しておきました。

総じて、「記録」には、皆さんの多くが、講師の先生方の講義概要を要点よくまとめ、自身の考えや意見も要領よくしっかりと書いていることを、とてもうれしく思っています。

「知った」「感じた」「分かった」などの記述から、教室と参観校での具体的な学習と観察の成果が、多く見受けられたことは、とてもすばらしいそれぞれの方々の「感性」の表れと思いました。

大切にしていきたいと思います、思います。

しかし、中には、①明らかに手を抜き講義内容を適当につまみ食いして記述していたり、②自分で考え決めた「1 参観の観点」(記録 p.10)にそった「2 参観の記録」(同 p.10)の記述が無く、これらの記録つまり「事実」をもとに「3 参観内容の考察」(同 p.11)にご自身の「意見」(「考え」。感想、評価、提案など含む)が書かれていなかったり、③文字が小さかったり、明らかに「他人に読んでもらうことを意識せず」「書きなぐって」いたりするものもありました(「記録」p.3 の「3」他の参観者と情報交換が出来るように記述する」参照。私も、「他の参観者」に、含まれます。皆さんは「学習者」です。授業の当初から明確にお話してあるように、私は、この「教職入門の記録」も大きな材料の一つに、単位授与の評価をします)。

「きれいな字で」とは、言いません。しかし、「学習者」として、「読んでもらうため」「見ってもらうために」、「丁寧に、それなりの文字の大ききで、濃淡なくほぼ一定の濃度で、誤字脱字などなく」、それでいて「限られた紙面に簡潔に」鉛筆やボールペンあるいは万年筆などで「いずれか一つの筆記用具で」記述することは、大学で学習すべきことの一つです(これらの多くのことは、本来は、大学に入ってくる前に学習しておくべきことです。特に、「事実」と「考え」(「意見」)を明確に区別して書くこと、読み取ることは、小学校 5 年生の国語(新しい小学校学習指導要領では「国語第 5 学年及び第 6 学年」の「2 内容」の「B 書くこと(1)ア」「(同)イ」など)の中で、学習してきています)。

こうしたことがらは、後でご自身で読み返すときにも、大いに役に立つし、ものを書くときの基本であり、原理原則です。

今後、多くのレポート提出などあろうかと思えます。改めて、きちんと丁寧に、他人に読んでもらうことを意識して、お書きになることを、ご留意ください。

なお、上記②は「講話」の記録（p.6 から p.9）についても当てはまります。つまり、「講話概要」は、講師の先生方の話の「事実」のみ記述。そして、「受講者にとっての成果」は、これらの「事実」を踏まえたあなたご自身の「意見」が書かれなければなりません。

改めて、皆さんは学習者ですから、要求されていることのみを簡潔に、想定されている読み手に分かるように、書かなければなりません。

「教職入門」は、まさに本学にとって、教職にとどまらず、勉学の第一歩。少なくとも、「記録」は、4年生になったときの必修科目「教育実践研究」で資料として使用されることが想定されています。

初心を忘れないこと。何よりも、冒頭に記したような最初の衝撃と感動にも似た「感性」つまり、初々しい素直な感覚を大事にしていきたいと、思います。

「教職入門」でのこうした感覚は、①本学の理念にそって、それぞれの専攻で関連性と連続性を柱に、組織的に計画し開設されている（と、私が所属する「教育学講座」あるいは「学校教育教室」の立場からは、断言できます）4年間のすべての授業科目の内容、②学内外での諸活動、そして、③何よりも、今後少しでも関連することが予測され読まれる書物や文献の内容など、あなたのすべての経験と体験に確かな根拠を求めることによって、客観的に分析的に論理的に、縦横無尽な「つながり」を深め広めていくことができます。

大いに期待しています。

以上

（追伸）「学習」「経験」「組織的」「つながり」などと書き進んできて、ここ2、3日の新聞報道等で考えさせられること、あるいは、考えていることがらに、「メディアリテラシー」と「食物連鎖」があります。

確かに、福島原子力発電所の修理あるいは機能回復の作業に、何百人という関係者が、命を張って、取り組んでいることに関し、心からの謝辞を申し上げたい。そして、こうしたことがらと、我々の日々の「幸せな」生活に直接関連する人体への放射線被曝等に関する報道に接することができることは、何よりも有意義なことと思っています。

しかし、「ただちに、人体に影響はない」「一気に、・・・」というのみで、この裏には「徐々

に」「じわりじわりと」との表現が見当たらないことを、危惧しております。「おやっ」と「ん?!」思うこと、「メディアリテラシー」です。

80 キロ圏外への避難指示を出したアメリカは、すごい、と改めて感じさせられています。

一昨日（平成 23 年 3 月 19 日）から、茨城産等のハウレンソウのなど野菜に「ただちに、人体に影響を与えるほどではない、線量が観測された」との新聞等報道があります。

野菜は、地面から採れるもの。

間もなく、海産物の影響が報告されると、私は、考えています。本日（平成 23 年 3 月 21 日現在）、まだ報道は見当たらないようです。

風評ではありません。

学習したことから考えると、そうなります。

最初に海から海水を汲み上げ第 3 号機に放水した、あの桶（ヘリコプターから吊り下げられていましたから、ヘリコプターとその機内以上に、放射線量の多い、あるいは濃度の濃い空間にありました）は、2 度、3 度と放水を繰り返すときに、洗浄したのか。

「洗浄した」という、あるいは、「その都度別の桶を使った」という報道はありません。

ヘリコプターは、ある一定の距離を保って放水し、乗組員も厳しい基準の中で安全が確保されていることは、とても喜ばしいことです。しかし、その桶から放水された水は地中に（たぶん一部は、海に戻ります）浸み込んでいき、いずれも地中あるいは海の生物が生きる糧として、それぞれの生物体内に蓄積されます（その後に、特殊な消防車で放水されている海水も同様です）。これら地面からの生産物、海からの海産物を、すべてでは無いにしても、今後も、これまで同様に、人間が食べます。……

「食物連鎖」による「(物質の)濃度の高度化・凝縮(化)」が起こることは、小学校の理科で勉強したことです。

「一気に」「ただちに」という表現の裏には、「徐々に」という重要な表現がありますが、残念ながら、報道には、記述されていないようです。

「徐々に」という表現で影響が表れると考えられるのは、あなた方のような若い人たちと、妊婦さんのおなかの中にいる胎児を含め、小さな子どもたちです。

繰り返しますが、風評ではありません。

組織的に計画された学校教育の中で学習したことがらが正しく私の理解が間違っておらず、報道等の情報で本件にかかる事項に見落としが無いとすれば、上記のことが、今後大いに予測されることだということです。

改めて、特に新聞など、すべての情報を精査しての、上記メモ（追伸）ではありませんこと、お断ります。しかし、少なくとも、私は、今後の海産物・水産物の線量<sup>1)</sup>に注目していきたいと思っています。

以上

(注)

<sup>1)</sup> 本日（平成 23 年 3 月 21 日正午の NHK ニュースで、「放水した水が海に流れ込んでいると思われるので、海の線量を測定することも、考えている」趣旨の、報道がありました。

(13:05, H23.3.21 篠原文陽児)